

日立製作所が水処理膜を説明 先端膜工学研究機構が講演会

神戸大

水処理分離膜の事業展開」と題し、浄水、下水、海水淡水化・下水再利用の各分野について説明した。

浄水分野では耐薬品性が高く、軽量でコンパクトな有機PVD膜（MF）で、省スペース化などが図れるケーシング収納型（加圧ろ過タイプ）と、省エネルギーなどが図れる槽浸漬型（水位差ろ過タイプ）があることを紹介。下水分野ではトレーラーによる運搬が可能で、据え付けや撤去も容易な単槽式MBRユニットや高沈ユニットを解説し、小規模下水処理場の改築工事期間中における仮設水処理や災害時などに適用できるとしている。

海水淡水化・下水再利用分野では、RO膜を用いた海水淡水化装置とともに、膜ファウリングを抑制することで、安定した高回収率運転を可能にした海水淡水化システムの特長や適用例、下水再

利用への適用などを披露した。
サロンの水処理グループでは、▽シミュレーションによる膜面ファウリング状態の把握および薬液洗浄でのMBRファウリング抑制技術（東レ）▽水処理用ゼオライト正浸透膜の現在地と展望（早稲田大学）―などについて意見交換した。

水 道 産 業 新 聞

2024年（令和6年）11月7日（木曜日）

国内唯一の膜工学研究拠点として、産学連携で膜工学の先端研究と人材育成を推進している神戸大学先端膜工学研究推進機構はさきごろ、膜工学秋季講演会・膜工学サロンを対面とオンラインライブのハイブリッドで開催した。講演会は産官学4題、サロンは水処理など13グループで意見交換が行われた。

講演会では、日立製作所が「日立製作所における